

こんな方に自主上映をおすすめします。

公共図書館

- ✓図書館主催の市民講座のひとつとして

JA

- ✓農業祭などのイベントでの上映
- ✓組合員向け講座のプログラムとして
- ✓職員の学習用に

自治体

- ✓新規就農者向け講座として
- ✓地域おこし協力隊メンバーが地域おこしの一環として企画する事例もあります

生協・市民グループ

- ✓組合員の学習会で
- ✓農業の現場を知るための教材として

農家グループ

- ✓消費者との交流の橋渡しに

大学・農業高校

- ✓授業や公開講座
- ✓文化祭など、行事の企画として

自主上映にかかる費用

項目	備考・詳細
上映料(おおまかな目安) *条件により変動しますので、詳しくはご相談ください	【50人まで】50,000円+消費税=55,000円 【100人まで】70,000円+消費税=77,000円 101人目から、1人500円(税込)加算(上限あり)
会場使用料	公民館や市民ホールなどを借りる費用 (公共施設の場合、使用目的によって使用料が減免措置になる場合もある)
上映機材費	DVD/ブルーレイ再生機、プロジェクターやスクリーンなどの上映機材、また、アンプやミキサーなど音響装置などのレンタル代(会場に備え付けの場合もある)
送料・手数料等	上映用DVDなどの、発送・返却時の宅配便代、チラシ・ポスターなど送付物の送料、及び上映料金の振込手数料
宣材料	チラシ、ポスターなどの費用
その他	人件費、その他雑費など
監督を呼びたい場合	交通費・謝礼など

自主上映会相談窓口

自主上映会企画

(一社)農山漁村文化協会(農文協)
文化活動グループ内 担当:阿部真弓
〒335-0022
埼玉県戸田市上戸田2-2-2
TEL 048-233-9336 FAX 048-299-2815
e-mail nbk-100sho@mail.ruralnet.or.jp

映画制作・配給会社

プロダクション・エイシア 担当:大兼久
おおがねく
〒202-0015
東京都西東京市保谷町2-7-13
TEL 042-497-6975
e-mail info@asia-documentary.com



自主上映会を開きませんか

農文協が制作協力した映画『百姓の百の声』は、
全国の百姓たちの知恵・工夫・人生を、
美しい映像と丁寧なインタビューで紡ぎだすドキュメンタリー。
この映画をみてこれからの「食と農」について語り合いませんか？
米や野菜や果物の向こうに、百姓の姿を想像できる人が増えることを願って。



★第38回農業ジャーナリスト賞 受賞
 ★うらやすドキュメンタリー映画祭 第2位
 ★全国34の映画館で上映 (2023年4月現在)

農と食のかけ橋となる映画です

農の世界に魅せられた監督の柴田さんが、畏敬に満ちたまなざしで「百姓国」の住人たちを訪ねる旅です。田んぼで農家が何と格闘しているのか、ビニールハウスの中で何を考えているのか……。

そこには、大規模経営、耕畜連携、無農薬栽培など、多彩な農家が登場。その誰もが、作物や自然と向き合い、工夫を凝らし、その喜びや面白さをこれでもかと語ります。「農業の世界はクリエイティブだった!」と柴田さんは驚いています。

農家の素の姿を多くの人びとに伝えたい。食べ物の向こう側にある農家の仕事・暮らしに思いをはせる人を増やしたい。そんな思いから、農文協も制作などに全面協力しました。

農と食の距離を縮め、農家と消費者の間に橋をかけるこの映画を、地元の「農の周辺にいる人たち」「これから農を志す人たち」にどんどん観てもらおう活動を一緒におもしろく、心から呼びかける次第です。



監督:柴田昌平
 プロデューサー:大兼久由美
 2022年製作・130分
 配給:プロダクション・エイシア
 公式サイト:<https://www.100sho.info/>



ご覧になった方の感想

農家さんが自分の知識や工夫や生み出した技術を、惜みなく他者に教えてしまうことに対して、最初とても不思議に感じました。でもタネを交換される様子を観ているうちに、農家さんたちは昔からずっと、タネや知識や技術を共有してきたということに気付きました。——八塚春名さん(津田塾大学准教授)

日本中の人に、今見てほしい映画です。

日本の農業を外から、自給率うんぬんとか、儲かるか儲からんかとか、主義や思想で語るのではなく、百姓がいつも何を考え何に挑んでいるのか、その内面だけを映し出し、丁寧に編んだドキュメンタリーです。——嶋谷幸彦さん(農家)

農業の仕事が、こんなにクリエイティブで面白いなんて!

土や植物のいろんな表情をキャッチする繊細さ。情報収集や共同での情報交換、惜みない情報公開。時には最先端の技術を大胆に持ち込み、自分流にアレンジしていく。それを日々積み重ねていく。そして、転んでもただでは起きない。めげずに前向きな人たちが、自分たちの食文化を支えてくれていると思うと嬉しくなる。百姓たちから、ものすごく元気をもらいました。(福祉業界)

ディズニーランド3つ分の田んぼをたった1台の田植機で稲作している映像、大変なはずなのに、疲れた顔を1ミリもせず楽しんで笑っていて、とても感動しました。——M・Yさん(短大生)

映画をきっかけに、農と食を語り合いませんか?

交流会

この映画は、観て終わりではなく、観終わった後の交流の場を持ってたらと願っています。上映を通して、地域の人びとと農家が対話し、未来について語り合う場がたくさん生まれてくることを、心より期待しています。



農家と消費者、農家同士の会話も弾む



農文協職員



集落の毛細血管のような小さな道まで、バイクで一軒一軒の農家を回る農文協職員 会ってきた農家とのやり取りや『現代農業』の裏話を披露

監督の柴田さん。



映画にこめた思いや撮影秘話を語る



映画出演者



岡山県の清友健二さんは、害虫を食べてくれる天敵昆虫の助けを借り、害虫被害も農薬使用量も激減させた。地元の上映会で登壇し、爆笑トーク炸裂

スペシャルゲスト



絵本作家・詩人のアーサー・ピナードさんをゲストに迎えての交流会。「『百姓』をどう英訳するか?」をテーマに話が弾んだ

楽しい併催イベントやミニコーナーを設置するのもオススメです。

タネ交換会

映画にも登場する「タネ交換会」を併催。参加者の皆さんが大事に育てたユニークなタネたちが集まり、作物談議に花が咲いた



書籍販売

農の世界にもっと親しみ、登場する農家についてより深く知ることのできる書籍の展示販売コーナー

